

たほいやの紹介

概要

- TV番組にもなったほど、すごく面白い言葉の意味当てゲーム！
- 親が意味を連想しにくい読みを持つ単語を辞書から選び、子がそれぞれ「本物っぽい嘘の意味」を書く。その中から正解を探すゲーム。
- 特にイギリスでは以前から辞書を使ったゲームは親しまれているらしい。

コンポーネントとプレイヤー数

用具

- 分厚い辞書1冊(広辞苑など)
- 筆記用具(プレイヤー数分)
- メモ用紙(たくさん)
- チップ(1人当たり10枚)

プレイヤー数

- 3人以上, 5人が標準的

ゲーム進行(1)

1. 親は辞書から誰も知らないような単語を選ぶ。ただし、同音異義語を持つ単語は駄目(発声, 発生は両方「はっせい」なので駄目)。

例:「まんばち」

2. 親はその単語(漢字でもカタカナでも)の読みをメモにひらがなで書いて示す(ヒントになるので読み上げない)。

例:「まんばち」

3. 子はそれから連想される本当っぽい嘘の意味をそれぞれメモ用紙に書く。親は正解(複数の意味があるときは一番目出ないと駄目)をメモに書く。

例1) 大太鼓の奏法で, 乱れ打ちの一種

例2) ハンガリー生まれの社会学者。社会的カオスの概念を提唱した

例3) 大罪, 転じて, 地獄(仏教用語)

例4) いつわり, うそ, またはうそをよく言う人(これが正解!)

ゲーム進行(2)

4. 親は正解も含めて答えを集め、任意の順番(番号を記入するとよい)で書かれている内容を声に出して読む。
5. 子は正解と思う答えの番号(自分の番号は駄目)と賭けるチップ数(1~3)を紙に書き、同時に公表。
6. 親は順番に意味とそれを書いた人を読み上げる。
7. 清算をする。
正解の子:賭けたチップを戻し、さらにその数のチップを親からもらう。
不正解の子:だました人に賭けたチップを渡し、さらに親に1枚(正解者0なら2枚)渡す。
8. 親が一周するとゲーム終了。チップの多い人が勝者!